



騰写版【ガリ版】 (教育博物館 展示室D)

特別展

印刷と文具の歴史

～学びを支える「技」と「モノ」～

試験問題も文集、学級だよりも
みんな昔はガリ版刷りだった！

まなびや



ガリ版(騰写版)とは、明治時代に生まれ、小・中規模の印刷に大活躍した簡易印刷機のことです。鉄製のヤスリ板を下敷きにロウ原紙を載せ、その表面に鉄筆で文字を書き、鉄筆により開いた微細な孔からインクが押し出され、文字が印刷されます。文字を書く際の「ガリガリ」という音からその名が付いたとされています。

今から130年以上昔には、授業で使うプリントやクラスの文集など、紙に書いたものを何枚も作るのに、コピー機やプリンターなどはありませんでした。

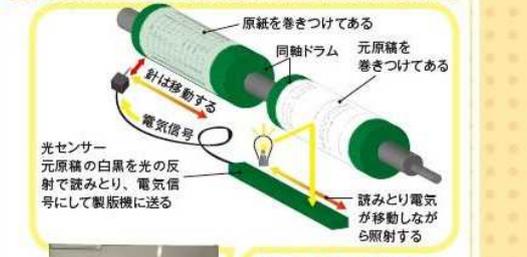
そこで、あの発明王エジソンが考えた仕組みを、日本では堀井新治郎(現・滋賀県東近江市出身)が一八九四(明治27)年に細かい文字表記の多い日本語に適した形に改良した騰写印刷機を発明・販売して行政機関や学校等で数多く普及していきました。

今では、ほとんど見かけなくなったガリ版、途上国では、電気不要のエコな印刷機として今でも利用されています。また、古くて新しい手作りの温もり感をアートとして、いまでもガリ版を使って、絵や年賀状などの作品を作っている人たちがいます。



①騰写版と印刷のしくみ
原紙(表面にロウを塗った薄い紙)に鉄筆で文字を書くとき、小さな穴があり、その穴からローラーでインクを押し出して紙に転写する(孔版印刷)。鉄筆で文字を書くとき、ガリガリ音がするから「ガリ版印刷」とも呼ばれた。

②騰写印刷機
鉄筆で原紙に文字を書き、版をつくるころまでは①と同じだが、それをこの手回し式の印刷機にかけることで印刷はよりカンタンに。その後電動化されさらにスピードアップした。(写真提供/騰写技術資料館)



③初期の製版機のしくみ
左右のドラムに原紙と原稿を巻きつけ、光センサーで読み取った原稿を電気信号にして送ることで、原稿通り原紙に穴をあけていく。出来上がった版は②で印刷された。(写真は昭和30年代の自動製版機。提供/騰写技術資料館)

特別展 印刷と文具の歴史 ～学びを支える「技」と「モノ」～



令和6年12月14日(土)～令和7年3月23日(日)
開館時間：9:00～17:00(最終入館は16:30まで)
休館日：月曜日(祝日は除く)・祝日の翌日(1/14, 2/12, 2/25, 3/21)
年末年始(12/29～1/3)

福井県教育総合研究所 教育博物館
TEL:0776-58-2250 FAX:0776-58-2251
E-Mail:ed-muse@pref.fukui.lg.jp

今回の展示では、学校で利用された印刷の道具や器具などを中心に、印刷の歴史について展示します。あわせて、読み・書き・計算及び工作など学習に使用した文具について

※詳細はHPをご覧ください
期間：令和7年2月22日(土)～
エコパズにオリジナルプリント
関連イベント「ガリ版体験」
でも紹介します。

資料提供：ビジネス機械・情報システム産業協会【子どもの科学2015.10】